

○提案内容

(1)実現したい都市のビジョン

高松市では、「第6次高松市総合計画」(2016～2023年度)において、「活力にあふれ創造性豊かな瀬戸の都・高松」を目指すべき都市像として、6つのまちづくりの目標の達成に向けて、施策を推進している。特に、今年度からの「第2期まちづくり戦略計画」(2018～2020年度)では、重点課題として取り組むテーマとして、「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」や「スマートシティの推進」を掲げ、ハード・ソフト両面において、持続可能なまちづくりに取り組んでいるところである。

「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」に関しては、本市内において、人口減少・高齢化が今後さらに進展する一方で、市街地が拡大・低密度化傾向にあることに対応して、集約型の「多核連携型コンパクト・エコシティ」の実現を目指している。昨年3月には「高松市立地適正化計画」を策定・公表し、医療・福祉・商業などの都市機能の誘導及び中心市街地の活性化を図っている。また、同時に、鉄道を基軸としたバス路線の再編により、集約されたまちを公共交通で繋ぐことを目的として、事業者とも連携して、今年度末に、「高松市地域公共交通再編実施計画」を策定する予定である。

一方で、急速に発展するICT、IoT等の先進的な技術をまちづくりに活用し、地域課題の解決を図るため、本市では、「スマートシティたかまつ」を目標とした取組を推進している。昨年2月からは、官民データを共有する共通IoTプラットフォームの運用を開始し、水位センサー等による防災分野、レンタサイクルの位置情報による観光分野において、データ活用を行っている。今年度は、ウェアラブル端末による高齢者見守り分野、ドライブレコーダ情報による交通安全分野に取組を拡大している。また、取組に当たっては、多様な主体との連携を重視しており、一昨年10月に設立した「スマートシティたかまつ推進協議会」の中で、産学民官による議論を行っている。

本市では、昨年度からのIoT共通プラットフォームの運用やスマートシティたかまつ推進協議会の運営によるスマートシティを支える「基盤」の整備に加え、今年度は官民データ活用推進計画として、「スマートシティたかまつ推進プラン」の策定を予定している。今後は全体最適に沿った各課題の取組を加速させていく必要がある。

(2)新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙2の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>(ア)交通・モビリティ 公共交通の利用促進に向けた、ICTを活用した情報提供について、必要なデータが十分でないことや既存システムの操作性が良くないことから、県内外及び近年急増する海外旅行者に対する情報提供のサービスレベルは低い状況である。このため、路線バスのルートや遅延状況等、公共交通機関に関する情報の可視化を行うことで、利便性を高めるとともに、誰もが移動しやすい環境を整える必要がある。 また、公共交通空白地域におけるコミュニティ交通について、持続可能なモードの選択肢の拡大や、導入後の容易な実績把握のための交通システムについて検討する必要がある。</p> <p>(エ)インフラ維持管理(老朽化) 本市では、多様な行政需要に対応するため、これまで様々な公共施設等(道路・橋梁等の土木構造物を含む)を整備してきたが、今後、老朽化に伴う建て替え等が一時期に集中することが予想されており、人口減少、少子・超高齢社会を迎える中、効率的な活用を図るとともに、財政負担を軽減化・平準化することが課題となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 公共施設 今後の方向性等を定めた「高松市公共施設再編整備計画」を策定したが、実際に個別施設の再編(統廃合、集約化等)に取り組む際には、施設の利便性や地域の課題解決などへの配慮が求められ、人口動態等、様々なデータの活用が必要となる。</p> <p><input type="checkbox"/> インフラ施設(例:道路) 約2,400kmの市道について維持管理を実施し、年間1,000件以上の舗装修繕や道路付属物等の新設・修繕等を行っているが、今後は、位置情報も含めた一元的な管理によって、財政状況が厳しい中で、効率的に道路管理を行う必要がある。</p> <p>(サ)コンパクトなまちづくり 本市では、中心市街地の活性化に向けて、「中心市街地活性化基本計画」に基づき、来街魅力の強化、情報発信による回遊促進、居住環境の充実に取り組んでおり、施策の効果を測るためには、中心市街地内の正確な通行量を測る必要がある。これまで、通行量は、中央商店街15地点における年4日間の人手によるカウントによって調査していたが、天候やイベント等によって結果が左右されやすく、標準的なデータが取得しづらく、より正確かつ効果的に計測するためには、新たな調査手法に移行する必要がある。</p>	<p>(ア) (エ) (サ)</p>

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

(ア) 交通・モビリティ

GTFSデータの整備、バスロケーションシステムの構築、デマンド交通システムの構築、シームレスな移動の実現

(エ) インフラ維持管理(老朽化)

- ・公共施設利用率、統廃合・集約化等の分析、予測技術
- ・ICTを活用した道路管理システムの構築、道路台帳の電子化

(サ) コンパクトなまちづくり

- ・人流カメラソリューション

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

(ア) 交通・モビリティ

公共交通の利便性を高め、誰もが移動しやすい環境を整備するため、バス路線の経路検索サイトへの情報検索のほか、交通データのオープン化の検討と併せて、遅延状況等について情報提供するバスロケーションシステムの普及を推進する。

また、路線バスが運行している幹線道路沿いのエリアと違い、データ収集等が困難な公共交通空白地域における需要に応じたサービスの提供を可能とするデマンド交通システムを構築し、流動データを一元的に管理することにより、状態を定量的に把握することで、戦略的な交通政策を推進する。

(エ) インフラ維持管理(老朽化)

公共施設等の統廃合・集約化・長寿命化等にあたり、その利便性や地域の課題解決などへの配慮が求められ、最適な公共施設マネジメントにつなげるため、施設データに加え、新たに取得するデータを含む多種多様なデータ(人口動態や公共交通のデータ、エネルギー等の動的データ等)を集約することで、分析・可視化・点検の効率化等を行う。

市道のインフラストック等の情報の一元化を図り、効率的に道路の維持管理を行うため、先進他都市等のインフラ点検等の管理手法について調査・研究し、ICTを活用した道路管理システムの構築を目指す。

(サ) コンパクトなまちづくり

中央商店街の各定点に人流カメラを設置して歩行者等の通行量を計測し、年間を通じて、通行量データの収集・分析ができる環境を整える。このデータは、歩行者数の増加につながる、各商店街の特性を生かした効果的なイベントの開催や店舗のリレーシングに活用する。

(5) その他

(1)に記載したとおり、「スマートシティたかまつ」を目標とした取組として、既に共通IoTプラットフォームの運用を行っており、(4)の取組によって収集したデータについても、プラットフォーム上での利活用を行う。

また、(1)に記載した「スマートシティたかまつ推進協議会」には、ICT関連事業者だけでなく、商店街振興組合や民鉄事業者等も参加しており、関係者と調整できる環境は整っている。

○ 部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
総務局情報政策課ICT推進室 (関係課:住宅・まちづくり企画課、 交通政策課、ファシリティマネジ メント推進室、道路管理課)	室長 田中照敏	087-879-2172	ict_sct@city.takamatsu.lg.jp